

奨励の方法としては、強制的に全員を参加せしむる一斉教授の方法に依るものが相當にあるようであるが、更に修了證書の授與、有資格専門教師の招聘等により積極的改善の方法を講ずるもの等見出された。女工間の之れに對する興味も比較的旺盛であつて、出席人員の歩合は他に比して著しく高率を示してゐる。

第七十一表 出席人員別裁縫學校

學校	出席率					計
	二〇%まで	五〇%まで	八〇%まで	一〇〇%まで	不明なし	
裁縫女學校	1	6	2	1	4	12
補習學校分科	2	39	10	1	6	57
裁縫會	12	30	35	0	4	91
一般裁縫會	1	1	1	1	1	5
計	14	75	47	10	34	206

其他手藝、扶茶、生花、琴、編物、看護、染色、洗濯、絞り染等の施設も相當廣く實行され、ことに編物、刺繡、染色等の手藝品の製作は近來各方面に歓迎せらるゝに至つた。この種の手藝は女子の美的情操を發達せしめ、色彩に對する鑑賞を鋭敏にするばかりではなく、將來の家庭生活には極めて重要な準備教育でなければならぬ。農村に於ける生活は手藝の創作を樂しむ餘裕を持ち得ない事が

多い。併しこの訓練に依つて養はれたる情操は家庭生活を高尙ならしめるばかりではなく、内職、廢物利用其他等に於て、將來家庭經濟の上に効果をもたらす事が尠くない。

裁縫手藝教育につき、深夜業廢止前後の状態を比較すれば次の如くである。

第七十二表 深夜業廢止前後に於ける裁縫學校の状態

件名	實數		百分率	
	件	名	件	名
新たに裁縫科を設く	12	1	47	1
修學時間の延長	15	5	59	1
講習會の増加	3	1	11	1
有資格教師の採用	30	11	19	1
面目を一新す	3	1	1	1
強制裁縫とす	9	3	35	1
計	62	25	41	25

右に依れば一般補習教育に於けるが如く、工場側の施設に關する積極的改善以外に職工間に於ける興味の喚起と成績の向上とに著しい好果を示してゐる。

(ロ) 圖書新聞雜誌の縦覽施設

左表に見る如く、一、二種の雜誌及び數種の新聞を設けて之れを一般に縦覽せしむるといふのが普通一般の状態であつて新聞雜誌以外に圖書閱覽室巡回文庫等を設けて利用せしむるものは極めて尠少

である。従つて藏書の内容等も貧弱であつて講談小説以外に科學的書籍を藏し、職工が進んで之れを利用するといふ事は稀れである。

第七十三表 圖書新聞雜誌の設備狀態

圖書縱覽設備の狀態	工場數	百分率	圖書縱覽設備の狀態	工場數	百分率
單に圖書室ありといふもの	三〇	一四・五	政治、經濟、紡績、科學、 文藝、修養、娛樂、し	四	一・九
巡回文庫ありといふもの	二八	一三・六		八四	四〇・八
新聞雜誌のみ	五三	二五・七	計	二〇六	一〇〇・〇
文藝修養娛樂	七	三・四			

僅かに深夜業廢止前後の比較として左記事項を數へる事が出来る。

第七十四表 深夜業廢止前後に於ける圖書縱覽施設の狀態

件名	實數	百分率	件名	實數	百分率
利用人員の増加	三〇	二四・六	職工が書物の選擇に注意する傾向あり	五	四・一
圖書の増加	一〇	八・二	不明	六九	五六・五
文庫を新設したるもの	八	六・五	計	一二三	一〇〇・〇

(一) 講習會講演會の開催

講習會は主として寄宿女工のために短期的に裁縫、手藝其他の家事を習得せしめんとして設けられた施設であつて各方面に普及せられて居る。講演會は趣味、衛生、宗教、通俗、公民、修養等種々なる部門に亘つて居るが、宗教、修養及び衛生に關するものが最も多く、毎月一回乃至二回各方面の名士、學者、官吏、工場關係者等が招聘され工場全員をして半強制的に聴講せしむるものが多い。又市内に開催せらるゝ名士の講演會等に電車切符を支給して聴講せしむる等の方法を採用してゐるものもある。講習會、講演會等は餘暇利用福利施設として學校教育の缺點を補ふ上よりも重要である。

(二) 修養的團體

品性の向上徳義の涵養を目的とする修養的團體は左表に示す如く各方面に亘つて組織されて居るが最も活潑な状態にあるのは修養團及び希望社の組織であつて一工場に於て二百名乃至三百名の團員を擁して居るものが多い。

第七十五表 修養團體の種類

團體の種類	實數	百分率	團體の種類	實數	百分率
修養團	六五	二四・四	佛敎婦人會	一四	五・三
希望社	四九	一八・四	日曜學校	五	一・九
報徳會	一二	四・五	天理敎婦人會	二	〇・八

團體の種類	實數	百分率	團體の種類	實數	百分率
處女青年會	六	二・二	禁酒會	一〇	三・七
女子青年會	二	〇・八	文藝協會	一	〇・三
少年會	一	〇・四	敬愛會	一	〇・三
青年會	二	〇・八	社會化	一	〇・三
在郷軍人會	一	四・一	社會化	七	二八・六
相五修養會	八	三・〇	計	二六六	一〇〇・〇

深夜業廢止前後の比較としてかゝげらるべき状態は左の如くであるが、「精神的餘裕を生じたるもの」といふのが最も多數を示して居るのは注目すべき點である。

第七十六表 深夜業廢止前後に於ける修養團體の狀況

廢止前後の比較	實數	廢止前後の比較	實數
隆盛となりたるもの	三	組織的となりたるもの	九
新規に開始したるもの	六	疲労の減退により有效となれるもの	八
團員の増加	三	意見なし	一五九
精神的餘裕を生じたるもの	一八	計	二〇六

(二) 體育に関するもの

近來體育熱の勃興と共に工業主間に於ても體育及び保健に注目するもの多く、種々なる改善發達を見たのであるが、特に深夜業の廢止と共に體育的施設の必要及び之が指導獎勵の方法等は一層緊切な問題として社會一般から注目せらるゝところとなつた。本調査の結果に於ても體育に関する施設は一般に著しき普及状態を示し、何等體育的施設なしといふものは僅かに一九工場(八・二%)を數へるのみで其他の一八七工場(九〇・八%)に於ては男女を問はず、尠くとも一種乃至數種の體育的施設を設けて居る。

第七十七表 體育施設の有無

體育施設の有無	工場數	百分率
なきもの	一九	八・二
有るもの	一八七	九〇・八
計	二〇六	一〇〇・〇

各工場を通じて最も多く行はるゝのは左表に見る如く庭球、野球及び國民體操の類であるが其他女子の爲に特にバスケットボール、バレーボール及び遊戯、ダンス等を奨励するものも多い。其他海水浴、登山等を期節的に行ふもの遠足運動會を定期的に開催するもの花園、農園等を設けて屋外に親し

ませる等の方法を選ぶもの等もあり、尙體育講習會の開催、各種運動俱樂部の設立等に依つて積極的獎勵の方法を講ずるもの等の見出さるゝのは特に著しい傾向である。

第七十八表 體育運動の種類

運 動 の 種 類		貨 数	總數百分率	運 動 の 種 類		貨 数	總數百分率
體 操	國民體操	120	57.97	機 械 體 操	兵式體操	2	4.6
	家庭體操	36	17.39		器械體操	1	0.8
ドルーイフ及クツラト	陸上競技	47	20.61	遊 戲	遊動木	1	0.6
	バスケツト	43	18.86		シヨク	1	0.6
計	計	207	100.00	機 械 遊 戲	輪滑	4	1.8
	計	207	100.00		回子	4	1.8
體 操	基礎體操	3	1.44	機 械 遊 戲	滑輪	9	3.9
	家庭體操	12	5.79		回子	9	3.9
ドルーイフ及クツラト	ラメツト	15	6.58	機 械 遊 戲	回子	4	1.8
	メツト	8	3.51		回子	4	1.8
計	計	228	100.00	機 械 遊 戲	回子	4	1.8
	計	228	100.00		回子	4	1.8

運 動 の 種 類		貨 数	總數百分率	運 動 の 種 類		貨 数	總數百分率
武 道	大角柔術	28	22.76	強 健 術	西武強健術	3	3.34
	角力	15	11.22		岡田式強健術	6	6.66
道	剣道	40	31.25	野 球	庭球	15	11.3
	銃剣術	5	4.06		野球	1	0.6
ス ン ダ	家庭遊戯	4	3.12	庭 球	庭球	1	0.6
	盆庭遊戯	6	4.7		庭球	1	0.6
遊 戲	修養遊戯	8	6.25	野 球	庭球	1	0.6
	律儀遊戯	9	7.03		庭球	1	0.6
球 撞 及 球 卓	卓球	180	66.42	野 球	庭球	1	0.6
	撞球	91	33.58		庭球	1	0.6
計	計	271	100.00	野 球	庭球	1	0.6
	計	271	100.00		庭球	1	0.6
他	網引	7	3.03	野 球	庭球	1	0.6
	登山	9	6.66		庭球	1	0.6
共	海遊	3	2.59	野 球	庭球	1	0.6
	遠遊	5	3.34		庭球	1	0.6
計	計	231	100.00	野 球	庭球	1	0.6
	計	231	100.00		庭球	1	0.6

次に體育的施設につき深夜業廢止前後の状態を比較すれば左の如くである。

第七十九表 深夜業廢止前後に於ける體育施設の狀況

體育施設の種類	實數	百分率	體育施設の種類	實數	百分率
體操の開始	三三	二七・二七	バレーボール新設	四	三・三〇
ダンスの開始	三六	二九・七五	俚謡おどり新設	一	〇・八二
庭球の開始	一四	一一・五七	ブール新設	三	二・四九
野球の開始	一三	一〇・七四	花園新設	三	二・四九
卓球の開始	四	三・三〇	農園新設	四	三・三〇
籠球の開始	六	四・九五	計	一一一	一〇〇・〇〇

右に依れば體育的施設につき深夜業の廢止後特に新設改善を試みたるものは全工場の六〇%の多數を占めて居る。其の内最も著しいのは體操、ダンス、庭球、野球等の開始であるが、花園、農園等を開設したものが比較的多數を示してゐるのは特に注目すべし傾向である。

尙之れを一般體育の狀況に就いて觀察すれば左表に示す如く運動熱の勃興利用者の増加となつて著しい結果を示して居る。

第八十表 深夜業廢止前後に於ける體育の狀況

深夜業廢止前後に於ける體育の狀況
時間及び疲勞の程度に依り自然的に盛となる
實數 四

利用者増加せり
益々盛大となる
實行の機會多く好都合なり
屋外運動の時間を得たるは保健上效果あるを認む
體育上好影響をもたらす
非常なる體質の相違を見るに至る
特に女子の競技者を見る
運動最も盛になりたり
廢止後は時間の餘裕を生じたため運動をなすもの増加し却つて作業能率に影響する事を憂ふるが如き状態なり
練習時間多きため技量上達す
消極的なりき
ダンスは一層盛となる
海水浴をなす人員は大差なれども海岸松蔭に冷氣をとり、又は讀書するもの著しく増加す
稍々情操の轉換を見つゝあり
社宅常住者は花卉野菜の栽培に喜びつゝあり
一見して面色著しく好轉する事を氣付くに至る
大差なし
計 八七

(三) 趣味、慰安、娛樂に關するもの

從來一般に行はるゝものは毎月一回乃至年數回の慰安會であつて所謂花見、觀劇、活動寫眞、歌劇、浪花節、義太夫、盆踊り等の催物であるが、近來工場内に西洋音樂をとり入れるものも多く、ピアノ、

オルガン、ラヂオ、蓄音機等の設置はもとより各種の唱歌を定期的に練習せしめ専門教師を招いて指導せしむるところが多く、出席歩合も他の學科に比して著しく良好である。従つて在來の慰安會の中には特に年一、二回の音樂會を催すもの及びコーラス、ハーモニカバンド、管絃樂隊の演奏を行ふものが多い。本調査の結果をかゝれば次の如くである。

第八十一表 趣味、慰安、娛樂機關の種類

趣味慰安娛樂の方法	實數	百分率	趣味慰安娛樂の方法	實數	百分率
映畫	一五八	三六・二三	室內裝飾會	五	一一・一四
觀劇	三一	七・一一	趣味會	三	〇・六八
盆踊り	三八	八・七一	果樹會	五	一一・一四
音樂會	二九	六・六五	小鳥會	二	〇・四五
文藝雜誌發行	二三	五・二七	講會	三	〇・六八
自藝演劇會	五	一一・一四	能言會	三	〇・六八
歌劇會	八	一・八三	昆蟲採	一	〇・二二
お伽節會	三	〇・六八	冠句會	三	〇・六八
浪遊會	五	一一・一四	短會	六	一・三七
書道會	三	〇・六八	園藝會	二	七・三三
畫會	二	〇・四五	農園會	二	五・九六
俳句會	三	〇・六八	花會	二	五・二七
計	一六	三・六六	計	四三六	一〇〇・〇〇

右表に見る如く音樂會の開催は第三位を占め、音樂に關する施設は著しい發達を示して居る。即本調査の結果に依れば音樂的施設なしといふものは僅かに四七工場(二二%)を數へるのみで、其他の五九工場(七八%)に於ては何れも一種乃至數種の音樂的施設を有してゐる。左に其の概況を示せば次の如くである。

第八十二表 音樂施設の種類

音樂施設の種類	實數	百分率	音樂施設の種類	實數	百分率
ヒアガノ	三九	六・七七	レコードコンサート	八	一・三八
オオルガ	一三四	二二・二六	マンドリンバンド	七	一・二一
蓄音機	四六	七・九八	マンドリン	三	〇・五二
ラザ	六七	一一・六三	三線	二	三・六四
唱歌	一〇四	一八・〇五	尺八	二	一・九〇
バカ	二三	三・九九	謡曲	二	二・〇八
ハモ	二五	四・三四	御詠	二	〇・三四
ハーモニカ	八	一・三八	計	五七六	一〇〇・〇〇
ハーモニカバンド	二九	五・〇三			
音樂會	一二	二・〇八			

右に依れば音樂的施設の普及状態は平均一工場當り二種内外であるが、深夜業廢止後新設されたも

のが極めて多い。左に其の状態を比較すればラジオ、唱歌及び西洋楽器の新設は著しい傾向を示してゐる。

第八十三表 深夜業廢止前後に於ける音楽施設の状況

音楽的施設の種類	實數	深夜業廢止後新設せるもの	音楽的施設の種類	實數	深夜業廢止後新設せるもの
ピアノ	三九	四	レコードコンサート	八	五
オルガン	一三四	二〇	マンドリンバンド	七	二
蓄音機	四六	九	マンドリン	三	一
ラヂオ	六七	三〇	三線	二	二
唱歌	一〇四	三八	尺八	一	二
バカ	二二	三	諸曲	二	三
音楽會	二九	六	諸曲	二	三
ハルモニカ	二五	三	御詠	二	二
バンド	八	二	歌	二	二
除隊	二	三	計	五七六	一三五

音楽的施設に次で多數を占めるのは工場文藝雑誌の發行である。之れは職工の思想發表の機關として教育、修養、娛樂等種々の方面から歓迎せらるべきである。尙書畫道、俳句、短歌等の同交の集りを催すものが多く左表に見る如く、深夜業廢止後急激に増加の傾向を示して居る。

第八十四表 深夜業廢止前後に於ける趣味慰安娛樂施設の状況

趣味慰安娛樂の方法	實數	深夜業廢止後新設せるもの	趣味慰安娛樂の方法	實數	深夜業廢止後新設せるもの
映畫	一五八	三	室內裝飾	五	三
観劇	三一	一	趣味	三	三
盆踊	三八	二	果樹	五	三
音楽會	二九	一	小果	二	二
文藝雜誌發行	二二	一八	講談	三	三
自由演劇	八	一	能狂言	三	二
唱歌會	三	二	見聞集	一	二
お伽會	三	二	昆虫採	一	二
浪遊會	五	二	短歌會	三	二
書道會	三	二	園藝會	六	五
畫會	二	二	園藝會	三	二
俳句會	一六	五	花農園	二	六
計	一六三	五	計	四三六	一〇三

第五章 結論

以上を綜合するに深夜業廢止後に於ける餘暇利用福利施設の狀態に就いては補習學校の設立、裁縫、手藝、教育等に於ける教授法の改善、施設の整備、文庫又は圖書室の新設擴張、ことに體育機關の充

實指導獎勵の方法の改善及び趣味娛樂機關の向上充實等に亘つて著しい改善發達の跡を認める事が出来る。又一面、深夜業の廢止に依る餘暇時間の増加は直接労働者間に於ける注意力の集中興味を増進、成績の向上、精神的餘裕による趣味生活の追求等となつて各方面に著しい効果を示してゐる。惟ふに深夜業の廢止の問題は労働者の健康の増進及び精神生活の向上等が主なる目的をなすものであつて餘暇時間の利用に就いては將來之等の見地に立つて充分に考察し計畫し指導してゆく事が必要であると思ふ。(終り)

昭和六年三月二十八日印刷
昭和六年三月三十一日發行

社會局 労働部

東京市京橋區榎町一丁目一番地

印刷者 西 脇 嘉 市

東京市京橋區榎町一丁目一番地

印刷所 一成社印刷所
電話京橋八一三番

70

100

100